

歯周病と全身の関係について

～健康な人も他人事ではありません～

歯科 松田 眞司

歯周病の実態

歯周病は歯を失う一番の原因です。歯が失われれば、硬いものが食べにくくなり、十分な咀嚼をせずに食事をするようになり、消化管への負担も無視できません。

令和4年度の歯科疾患実態調査では、4mm以上の歯周ポケット（歯と歯茎の間の溝の深さ、歯科医院で歯周病と判断する基準の一つ。深さが3mm以内は正常）を有する人の割合は15歳以上で47.9%、50歳以上では53%となり、実に**成人の半分は歯周病に罹患している**と言えます。歯周病は「沈黙の病気」と言われ、症状が気づいた時には既に進行していると言われていています。しかし、最近の研究では、口の中に歯周病の症状がある人が、実際に歯周病の検査をすると、やはり歯周病に罹患していることが多いという事が分かりました。すなわち、多少歯茎に**症状があることに気づいていても、歯科医院を受診していない人も多くいる**ことが予想されます。「熱が出る」、「頭が痛い」、「胸が苦しい」など深刻な症状と比較して、割と緩やかな症状しか現れない歯周病ですが、実は、最近の研究では非常に怖い病気であることもわかってきました。

歯周病と身体の関係

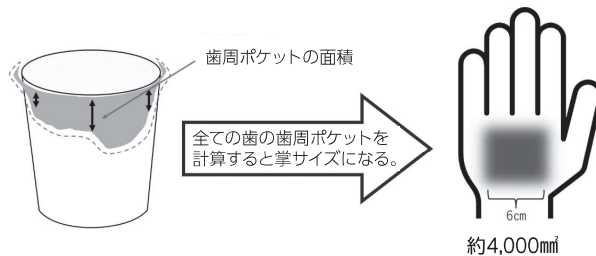
歯周病のない人と比べ歯周病患者さんは糖尿病、認知症、脳卒中、心筋梗塞、動脈硬化、関節リウマチ、慢性腎臓病、非アルコール性脂肪肝炎、早産、低体重児出産など多くの疾患と関連があることが分かっています。しかし、最近の研究では**健康な人にも歯周病は身体に悪さをしている**ことが分かってきました。日本歯周病学会が全国の歯学部歯周病科と共同で、健康な人を対象に歯周病と身体の炎症の関係について調べました。

炎症のある全ての歯周ポケット面積を足すと、重症の歯周病患者さんでは6cm×6cmくらいの大きさになることが分かりました（図）。これは人の掌くらいのサイズです。そこに歯周病細菌が感染しているわけですから、身体にとって良くないことは明白です。そこで、この歯周ポケットの面積の大きさと身体の炎症について調べたところ、**身体が健康な人も、歯周ポケットの面積が大きい人ほど、体の中の炎症も大きい**ということが分かりました。気づかない程度ですが、身体の炎症が持続すると、動脈硬化や心筋梗塞、認知症に繋がることも分かっています。ただ、この**身体の炎症は、歯科医院で歯周病の治療をするとちゃんと下がってくれる**ことも分かっています。

まずは、症状がない、又は症状が重度でない方も、ご自身の歯周病の状態を把握するために、歯科に通院して検査を受けてください。また、歯周病が治ると、身体が健康になるだけでなく、咬む力や咀嚼力も上昇することが分かっています。咬みにくくなったと思われる方も、是非歯科で検診をうけてください。

歯周病の予防、治療で健口と健康になりましょう。

公立世羅中央病院歯科では、日本歯周病学会認定の専門医、認定医が診察しています。



有料広告

売り物件 募集
空家管理

☎ 0847-22-3516

不動産せら
(有)井口建材

〒722-1121 世羅町西上原446-1
Mail: info@inokuchi-kenzai.co.jp
WEB: https://inokuchi-kenzai.co.jp/
(公社)全日本不動産協会会員
宅地建物取引業免許証番号 広島県知事(9)第6779号

